

編集後記：大気に国境はない、という話を気象学を学び始めたころ大学の授業かなにかで聞いたことがあります。気象の世界の魅力のひとつはそこだ！という感じでした。確かに明日や明後日の日本の天気を考えるときにお隣のユーラシア大陸の大気の様子を考慮しますし、古い話ですがピナツボ火山の爆発が世界中の大気に影響を与えたなど、大気は国境をいとも簡単にまたいで流れてきます。

天気はどうでしょうか。山の影響、海の影響、都市化の影響、数え上げれば限りがありませんが、その土地その土地がそれぞれ独特の天気の様相を持っています。そういう意味では天気には国境どころか県境さえ

あると言えるのかもしれませんが、遠方より来る人に「向こうと比べてこちらの天気(気候)はいかがですか？」という話がよく出てくるのも、土地が違えば天気も違うということを知っているからでしょう。

私は、物事を本当に理解するためにはそれを体験してみない限り難しいと思っていますが、全ての土地を訪れることは無理でしょう。幸いなことに気象学会員は全国にいらっしゃいます。会員の方々が体験された天気についての話題を、これからも『天気』でシェアしていくことで、少しでも理解が深まれば良いと願っています。(本田 有機)

訂正

47巻4月号 背表紙は、正しくは「P 二三三～三四二」であるべきところ、誤って「P 二三三～三四三」と印刷されました。お詫びして訂正させていただきます。

「天気」編集委員会

編集委員長 新野 宏(理事)

編集委員 神沢 博(理事)・関口理郎(理事)

藤部文昭(理事)・石田純一

植田宏昭・大野滋規

小田切さやか・大淵 済

木下 仁・小出 寛・小司禎教

住 明正・田口晶彦・高橋 宙

寺坂義幸・中村 尚・新村典子

板東恭子・別所康太郎・水野孝則

水野 量・山本 哲

地区編集委員 北海道 若原勝二・上田 博

東北 小柴 厚・早坂忠裕

関東 河原幹雄

中部 永尾一平・坪木和久

関西 和田高秀・山中大学

九州 金崎 厚・中島健介

沖縄 仲大安英

編集書記 遠藤和子